

### <定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少 ※◎:警報レベル ○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県) 第1~31週
	第30週	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	
<b>インフルエンザ定点</b> (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	266 0.05																16171
<b>小児科定点</b> (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	3057 0.97	5 0.17	21 0.70	△	1 0.08	7 0.54	△		1 0.33	△	3 0.50	13 2.17	△	1 0.13		▽	386
咽頭結膜熱	1737 0.55	18 0.60	18 0.60		3 0.23	2 0.15	▽		1 0.33	△	14 ◎2.33	15 ◎2.50	▲	1 0.13		▽	645
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	4958 1.57	41 1.37	40 1.33	▼	15 1.15	18 1.38	△	2 0.67		▽	17 2.83	12 2.00	▼	7 0.88	10 1.25	△	3340
感染性胃腸炎	12695 4.03	93 3.10	119 3.97	△	49 3.77	56 4.31	▲	9 3.00	8 2.67	▽	18 3.00	41 6.83	△	17 2.13	14 1.75	▼	5218
水痘	797 0.25	13 0.43	2 0.07	▽	2 0.15		▽	6 2.00		▽		1 0.17	△	5 0.63	1 0.13	▽	427
手足口病	5678 1.80	95 3.17	76 2.53	▼	68 ◎5.23	62 ◎4.77	▼	19 ◎6.33	10 ◎3.33	▽	6 1.00	2 0.33	▼	2 0.25	2 0.25		901
伝染性紅斑	776 0.25	4 0.13	7 0.23	△					1 0.33	△	3 0.50	6 1.00	△	1 0.13		▽	303
突発性発しん	1525 0.48	26 0.87	23 0.77	▽	6 0.46	4 0.31	▽	3 1.00	2 0.67	▽	9 1.50	10 1.67	△	8 1.00	7 0.88	▽	518
ヘルパンギーナ	9733 3.09	252 ◎8.40	340 ◎11.33	▲	148 ◎11.38	177 ◎13.62	△	6 2.00	1 0.33	▽	88 ◎14.67	133 ◎22.17	▲	10 1.25	29 3.63	▲	1302
流行性耳下腺炎	563 0.18	3 0.10	4 0.13	▲	1 0.08		▽		1 0.33	△	2 0.33	2 0.33			1 0.13	△	93
<b>眼科定点</b> (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	12 0.02																
流行性角結膜炎	658 0.95	4 0.50	6 0.75	▲	1 0.25	1 0.25		1 1.00	2 2.00	▲				2 1.00	3 1.50	▲	73
<b>基幹定点</b> (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	4 0.01																20
クラミジア肺炎	2 0.00																
マイコプラズマ肺炎	110 0.23		4 0.40	△		4 1.00	△										79
細菌性髄膜炎	12 0.03																8
無菌性髄膜炎	18 0.04		1 0.10	△											1 0.33	△	6

### <全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	3				
	無症状病原体保有者				1	
	疑似症患者			1		
腸管出血性大腸菌感染症	患者	2				型別:O157 VT1VT2 2人。
レジオネラ症	無症状病原体保有者	1		1		
百日咳	患者	4				※内、第30週追加報告2人。 ワクチン接種歴:4回 4人。小児 4人。
侵襲性インフルエンザ菌感染症	患者			1		※第29週追加報告分。ワクチン接種歴:不明。

### <通信欄>

※トピックスで、ヘルパンギーナについて掲載しています。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ															
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1	8	7	3	1	1									21
咽頭結膜熱		2	5	1	3	2	3			1				1	18
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	3	2	6	7	9	5	2	2	1			40
感染性胃腸炎	1	9	19	30	10	13	15	4	3	1	4	9		1	119
水痘			1		1										2
手足口病	2	8	20	14	14	5	6	5		1				1	76
伝染性紅斑				3	3		1								7
突発性発しん		7	12	2	1	1									23
ヘルパンギーナ	3	17	82	85	47	44	30	15	5	5	1	3		3	340
流行性耳下腺炎						2	1		1						4

<平成30年6月 月報>

2018年7月25日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～6月	
	5月	6月										
<b>STD定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	24	15	13	9	6	2	3	2	2	2	113
	定点当り	2.40	1.50	3.25	2.25	6.00	2.00	1.50	1.00	0.67	0.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	7	2	1	1	1	2	4	1	1	52
	定点当り	0.60	0.70	0.50	0.25	1.00	1.00	1.00	2.00	0.33	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	3	5	1	2			1	1	1	2	19
	定点当り	0.30	0.50	0.25	0.50			0.50	0.50	0.33	0.67	
淋菌感染症	報告数	5	3	2	2			1		2	1	17
	定点当り	0.50	0.30	0.50	0.50			0.50		0.67	0.33	
<b>基幹定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	7	11	2	1		1	1	3	4	6	47
	定点当り	0.70	1.10	0.50	0.25		1.00	0.50	1.50	1.33	2.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	13	22	5	12	2		1		5	10	107
	定点当り	1.30	2.20	1.25	3.00	2.00		0.50		1.67	3.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

<トピックス>

ヘルパンギーナ情報

県平均の定点当たり報告数は、3週連続で警報レベルとなっています。  
地区別では、村山地区と置賜地区が警報レベルとなっています。

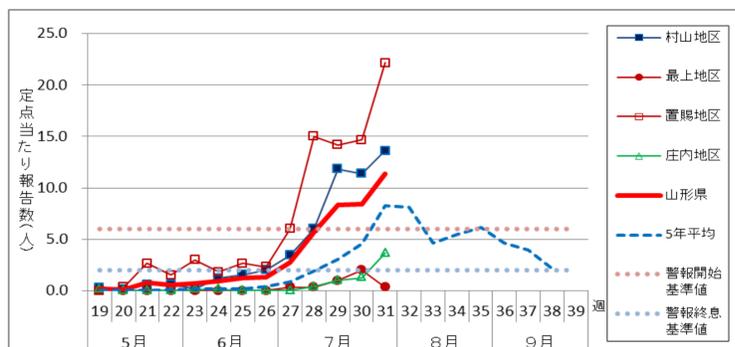
ヘルパンギーナ

- ・警報開始基準値:6人 警報終息基準値:2人
- ・第31週 定点当たり報告数(山形県:11.33人)
- 村山:13.62人 最上:0.33人 置賜:22.17人 庄内:3.63人

<ヘルパンギーナとは>

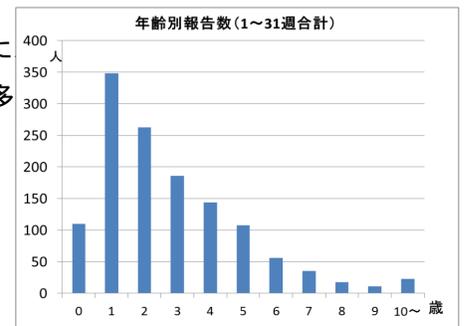
エンテロウイルス(コクサッキーウイルスA群など)による感染症で、幼児を中心に、夏に流行します。突然の高熱で発症し、続いてのどの痛み、のどの奥に水疱が現れます。のどの奥の水疱は、やがて破れて痛みを伴います。

1.地区別定点当たり報告数(山形県)



2. 年齢別内訳

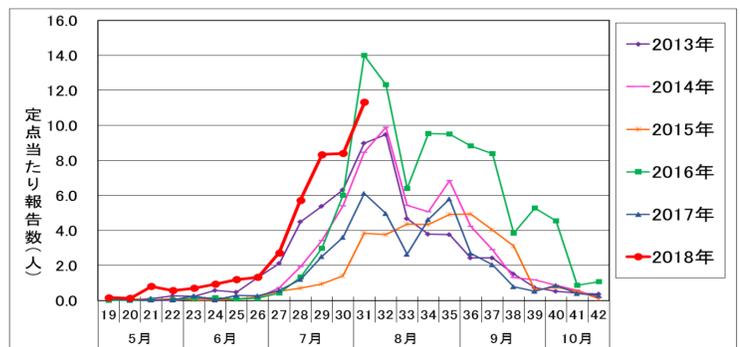
年齢別では、1歳をピークに5歳位までの幼児の報告が多くなっています。



3.ウイルス分離・検出状況 :山形県衛生研究所(8月1日現在)

2018年は、県内のヘルパンギーナの患者からコクサッキーウイルスA(以下CA)10型:13件、CA2型:2件、CA4型:1件分離・検出されています

4.年別定点当たり報告数(山形県)



ヘルパンギーナの治療は、対症療法が中心となります。口腔内の痛みにより、水分がとりにくい場合もありますので、脱水に注意しましょう。  
予防法としては、患者との濃厚な接触を避けることと、うがい、手洗いを徹底することが大切です。回復後も、便中には2～4週間にわたり、ウイルスが排泄されますので、おむつ交換や、トイレの後は特に入念に手を洗いましょう。

しっかり手洗い!



おむつ替えの後は入念に!

